



## 地域協働モデル事業「チョコラボ」

### ～オープン報告～

ふくしま NPO ネットワークセンター理事 深田 俊雄

去る平成 24 年 3 月 23 日(金)、福島駅前通りの錦ビル 4 階に新しいスタイルの仕事場 & サークル活動、ビジネス・サロンの場としての『チョコラボ』をオープンいたしました。

この「チョコラボ」は、東日本大震災並びに福島第一原発事故により避難されている方や求職活動をされている方々の起業や雇用創出を支援するための施設で、4 階のフロアには交流・サロンのスペースをはじめ、ワーキングスペース(共同の仕事場)、情報コーナー、ミーティングルームを備えており、誰もがいつでも自由に利用できます。

当事業は、ふくしまNPOネットワークセンターが福島県地域づくり総合支援事業の助成を受け、福島市や南相馬市、浪江町、飯舘村の自治体や福島商工会議所、(株)福島まちづくりセンター、そして市民福祉団体全国協議会をはじめシャロームさん、まごころサービスさん、ビーンズさん、福島ライドエイドの各NPO法人に、福島大学といった多様な主体間との連携協力のもとに実施するもので、事業期間は平成 24 年 2 月 20 日より 25 年 3 月 31 日までの期間です。“チョコラボ”という名称は、誰もがいつでも気軽に訪れ利用いただけるよう“ちょこっとこらん

しよ”という意味を込めて名づけたもので、利用料金は無料である上、パソコン(数台)とプリンターやパワーポイントも用意してあります。

オープン後、最初の活動としてセミナー・カフェを二日間、星野理事長ほか 3 名の講師の先生を招いて開催したのに続いて、福島市中心市街地内にお住まいの浪江町の方々による住民懇談会の会場として利用いただき、今後は、食育と観光ビジネスに関する 2 件のセミナーとイラスト・陶芸・詩の合同作品展の開催予約が入っています。

オープンしてまだ間もなく本格的な支援活動はこれからですが、今後は県北地域の避難住民への広報・PR活動や、求職者向けセミナーの開催、関連情報の収集と提供等の支援活動を積極的に展開してまいります。



# ふくふくプロジェクト、

## これまでとこれから

情報センター事務局長 早川 哲郎



### 避難者支援に大きな力

人が協力しあうのは、進化の過程で備わった本能に近い精神作用であると最近の研究で明らかになりつつあるようです。

震災後多くのNPOや市民活動団体が、団体が持つ本来のミッションを超えて避難者支援を行うなかで、連携することによって活動を発展的、効果的に展開しよう設立されたのが「ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議(ふくふくプロジェクト)」でした。

昨年4月に設立されてから丸一年が経ち、参加団体の連携による活動の広がりは、避難者支援に大きな効果を発揮してきました。避難元、避難先自治体が十分な被災者支援ができなかった穴埋めをしてきたのが民間による支援でした。活動基盤の弱い市民活動団体が連携によって力を増し、行政との協働や県外企業などからの大口の支援と結ばれることが可能になったのが「ふくふくプロジェクト」の力でした。

2月には「ふくしま市民活動フォーラム2012」開催し、震災後の地域の状況と支援を振り返り、これからの復興にむけた市民セクターの力を集約する節目となったのも大きな成果でした。



▼堺市人権教育推進協議会との懇談会で



◀市民活動フォーラム・パネルディスカッション会場



▲避難者への炊き出しの様子





## 避難者の自立、地域復興に向けて

現在、震災直後や二次避難に向けた物資支援など、緊急性を要した支援が一段落し、継続的な支援、個別的な支援に向けて各団体がニーズを把握しつつ新たな支援や復興への活動体制づくりに動いています。これからの活動においても「ふくふくプロジェクト」でこれまでつながってきたネットワーク、参加団体のみならず、県外支援団体や行政、企業とのつながりは、価値ある資源として活かしていく必要があります。

情報センターが毎日新聞などを媒体として発信してきた情報は、全国に「ふくふくプロジェクト」の存在をアピールし多くの支援に結びつきました。これからは、自立に向けて活動を開始している避難者組織の活動や支援ニーズを発信しつつ、被災地福島の普段の様子を発信して、外から見た福島とのギャップを埋めていく必要があると考えています。

ネットワークという言葉は簡単に語られますが、ネットワークの網の糸はとても細いので、その糸を繕ったり外から投げかけられた糸を受け止めるコア(核)が不可欠です。その「ネットワーク」を冠する当センターの今後の役割が重要になってきています。

ふくふくプロジェクト 御中

3月16日

拝啓

東京は少しずつ春の気配が見えはじめました。福島はまだ寒い日が続いていくことと思います。ちりめん生地と希望していらした毎日新聞で拝見いたしました。ノリ輪子も入っております。送らせていただきます。ボランティアに伺おうと、気持では思い続けているのですが、さまざま事情で、伺えません。でも、被災地の方達のごことは

決して忘れません。特に福島の方達に対しては、東京が大量に電力を使って便利な生活と享受できたのも、福島の原発のおかげでしたのに、その原発の事故で福島の方達が苦しんでいらしたと思うと申し訳ない気持ちでいっぱいです。本当にさやかぬことしかできませんが、復興が見届けられるまで、何かの形でお役に立てることに関わりたいと思っております。

ふくふくプロジェクトの皆様も被災地の皆様もどうか御身体には十分お気をつけてお過ごし下さい。

敬具

長谷久板

▲支援品とともに寄せられたメッセージ

### ◆会員募集&寄付のお願い◆

ふくしま NPO ネットワークセンターは、NPO・市民活動団体の支援を目的に活動をすすめています。地域社会の問題や課題に取り組んでいる市民活動団体の「元気」と「勇氣」を応援します。皆さんも、私たちとともに良い市民生活をつくりましょう。

- 入会／正会員・年間1口 10,000 円／準会員・年間1口 5,000 円／営利組織 5口以上
- 寄付／当法人は「認定 NPO 法人」です。寄付者の方の所得税、法人税の課税について、寄付控除の特例が認められた団体です。

※詳しくは、ふくしま NPO ネットワークセンターまでお問い合わせください。

# ふくしま元気市民活動助成金 ～活動中間報告～

## 団塊世代、高齢者の居場所事業

NPO 法人 コミュニティちやばたけ



昨年11月より済生会春日診療所内に、高齢者化社会の中で要介護にならないために「なでしこげんきサロン」をオープンして5カ月が経過しました。

これまで延べ753名の参加者があり、団塊世代を中心に、自分の経験や特技を生かしたり、余暇を楽しめるサロンになってきました。今後もイベントを通して広く町民にPRして、「体にいいこと、頭にいいこと、気持ちのいいこと、いいことに出会える場所」をキャッチコピーに、更なる展開をしていきます。



## 揚げよう音楽の和

～楽器と触れ合おう！音楽を楽しもう！～

NPO 法人 福島ウインドアンサンブル



元気助成金活動の一環として3月に福島市内の保育園を訪問しミニコンサートを開催いたしました。アニメの曲を中心に数曲を演奏。特に「マルマルモリモリ！」では、子どもたちみんな大はしゃぎ！始まる前に渡した小物楽器を手に、踊ったり歌ったりと楽しそうに参加してくれました。コンサート終了後には子どもたちに直接楽器に触れてもらう時間を設けました。



4月30日には福島市公会堂で当団の定期演奏会が開かれ、そこでも楽器体験コーナーを設ける予定です。

## 編集後記



✉ 4月から、職員になりました。改めて宜しくお願致します。新しい出会いの季節、当センターでも事業が増え、忙しい1年となりそうです。

(事務局・根本 靖子)

✉ 今年は桜の開花が遅かったですね。春が待ち遠しくてしかたありませんでした。雪うさぎも、さぞや出番を待っていたことでしょう。

(事務局・大山亜紀子)



## ●福島市より受託、運営している施設

○福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F

TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560

URL <http://www.f-ssc.jp> E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

○まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F

TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027

URL <http://www.machi-fukushima.jp>

E-mail info@machi-fukushima.jp

## ●編集・発行：NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F

TEL 024-528-1211 FAX 012-528-1218

E-mail center@f-npo.jp URL <http://www.f-npo.jp/>